

日本女子体育大学

Dance Letter

Vol.43

Japan Women's College of Physical Education

Department of Dance



3年生パフォーマンス

村田穂乃花(4年) 坂本研究室

研究室活動を開始して2か月が過ぎたころから3年生パフォーマンスに向けて題材を考え、29人いる研究室メンバーの意見により、坂本研究室は2作品に分かれて作品創りに取り組むことになりました。「花炎」、「名づけられた葉」の2作品を創作し、それぞれのイメージに合わせた動きを創作すること、また群舞作品の難しさである「気持ちを一つにして踊ること」の大切さを実感しました。

全員揃う機会が少なく、振り写しが進まないことや、うまくイメージを伝えられないことで困惑させてしまい作品が思うように進まない時もありました。また、チーム内で衝突することもあり、皆の心がバラバラになる時期もありましたが、みんなで意見を出し合い、作品をより良いものにしようと話し合いを重ねた結果、本番では今までで一番良いパフォーマンスができたと感じました。2作品あったことから一緒に舞台上に立てなかった仲間もいましたが、研究室内で3年生パフォーマンスに向かって共に励むことができよかったです。

このような経験ができたのは坂本先生やスタッフの方々、たくさんの支えがあったからこそだと感じます。感謝の気持ちを忘れることなく卒業公演に向けて頑張りたいと思います。



小柳樺音(4年) 高野研究室

3年生パフォーマンスの作品創作にあたって、私は研究室リーダー、振付、構成を担当しました。振付には6人全員が関わりましたが、ただ動きを採用するのではなく、作品の雰囲気やテーマに寄り添った表現ができるように構成していくのが私の役割だったと思います。みんなの個性や持ち味を作品の中で効果的に発揮するにはどうすればいいかを考えながらパズルをする感覚でした。

苦労したと思うことは、作品の解釈を共有することです。思考が内向的に膨らみがちな自分の性格上、具体的なイメージやテーマの解釈について言葉で伝えることへの戸惑いがありました。しかし、研究室のみんなが「ここが分からないよ」と何度も質問してくれたり、私が話し出すのを辛抱強く待ってくれたりしたおかげで、自分の考えを言葉にすることへのプレッシャーがなくなりました。そして、作品の解釈が全員で一致したことにより、みんなで同じ方向を向いて作品に取り組めるようになりました。

また、衣装、振付、照明、音源など、それぞれに頼もしい人がいて、全員で案を出し合い、一人一人が作品の一部として責任を持って取り組むことができ本当によかったです。

卒業公演ではそれぞれの個性を融合し、さらに強い効果を生み出せるように、残りの学生生活で技術と創作力を高めていきたいです。



田中博美(4年) 松山研究室

初めて研究室の仲間と創る作品。そんな中、ジャンルも性格もバラバラで個性が強い仲間が16人集まった松山研究室では、考え方も意見も研究室に対する熱量も、練習開始当初はなかなかうまくまとまらず、全てがバラバラな状態からのスタートでした。松山研究室らしい、自分たちらしいダンスとは何か悩み続け、なかなか前に進まなかった時期もありましたが、お互いに自分の意見を言い合う時間を設けて仲間と、そして作品と向き合い、毎日練習を重ねることに一人一人が自分の武器を輝かせることのできる作品へと近づいていくように感じました。可愛らしい様子の音楽や衣装からスタートしつつ、後半になるにつれて恐怖感や気持ち悪さを作品の中で演出することによって、15分の作品が面白く、より見応えのあるものになるようにこだわりました。また松山先生のご指導のもと、照明さんやスタッフの方々に協力いただき、作品の冒頭と終わり方も意味深長で興味がそそられるような演出にすることができました。

この3年生パフォーマンスを通して学んだことや、松山研究室に対しての気づき、悔しく思ったことや次はこうしたいといったような改善点など、考えたことや感じたことを全てぶつけて、卒業公演では悔いのない作品創りに16人全員で挑もうと思います。



後藤みさき(4年) 石川研究室

今回、3年生パフォーマンスの石川研究室リーダーと、リーダー長を務めさせていただきました。ジャンルが様々だったり、ジャズの経験が浅いメンバーがいたりする中で、みんなで協力し、意見を出し合いながら作品創りを進めていきました。上手くいかない事などは、何度か話し合いなどをして試行錯誤していったり、石川先生からアドバイスを頂いたりしながら、やっとこの作品を完成させることが出来ました。6~7分という他の研究室と比べると短い作品ですが、その中に沢山の工夫や努力が詰まった私たちらしい作品ができたのではないかと思います。

また、私たちの学年はコロナの影響で1年生の時のSHOWCASEができなかったため、学年としては初めての舞台となり、とても緊張している部分などが沢山あったのですが、先生方や助手さん、スタッフの方々の助けや協力があり、無事成功させることができました。私たちのために動いて下さり本当にありがとうございました。

卒業公演に向けて、今回の3年生パフォーマンスでの反省点や、今回作品を創って学んだことを活かし、3年生パフォーマンスの作品以上のものが出来るようこれからも精進していきます。



漁野萌々香(4年) 岩淵研究室

入学した当時から3年生パフォーマンスは遠い存在であり、「自分たちはまだまだ先だ」と思っていたのですが、あっという間に3年生になり、自分たちの代が回ってきました。研究室活動が始まって2か月で3年生パフォーマンスに向けての準備は始まりました。テーマ決めの段階から何度も話し合いを重ね、時には連日深夜まで全員で話し合うという日もありました。今回は、新型コロナウイルスの感染状況や舞台の使用関係を考え、岩淵研究室は2作品に分かれて創作をしました。

日本女子体育大学に入学して初めての大きな舞台は、何もかもが初めて行うことばかりでした。練習が本格的に始まってから本番までの約3か月間はとても険しく、時には意見がぶつかり涙を流したり、振付を踊れるまで何度も繰り返し練習したりしました。その中で振付はもちろん、一人一人が衣装や照明などそれぞれできることを考え、作品に携わることで良い作品が生まれるということを実感しました。

改めてこの3年生パフォーマンスを成功させるためには多くの人の協力があったからこそだと思います。先生方、助手さん、スタッフの皆さん、3年生パフォーマンスに関わってくださったすべての人に感謝します。この経験を活かして、卒業公演に向けて日々精進していきたいです。



渡辺ひかり(4年) 渡辺研究室

3年生パフォーマンスを通して、改めて踊ることの楽しさを実感しました。私たちはコロナ禍での入学から様々な制限の中で行動することになり、想像していた学生生活を送ることができませんでした。今回、入学してから初めてお客様を入れたパフォーマンスを行うことができ、とても嬉しかったです。私たち渡辺研究室の作品名は「壊花」。バレエでは珍しい洋楽を使用し、コンテンポラリーダンスの要素を取り入れた作品を創作しました。バレエとコンテンポラリーダンスの要素、洋楽を組み合わせることはとても難しく、振付者の2人を中心に試行錯誤を繰り返して創り上げました。ユニゾン部分がなかなか揃わず、直前まで全員で確認し、本番では今までで最も全員が一つになれた感覚がありました。振付者の2人には感謝しかありません。渡辺研究室のみんなには迷惑をかけたことばかりでしたが、支えてくれて本当にありがとう。

最後になりますが、パフォーマンスを観て下さった方、スタッフの方、そして、ご指導いただいた渡辺先生、助手の安田さん、関わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

今回の学びを糧に卒業公演へ向けに精進して参ります。



畦間遥花(3年) 舞台監督

私は昨年スタッフとして、今年は舞台監督として3年生パフォーマンスのサポートをさせて頂きました。私自身スタッフの経験が浅く、分からないことばかりで焦ってしまったということもあり、照明合わせで松葉杖を使う程の怪我を負ってしまいました。怪我ですぐは様々な気持ちが込み上げ、精神的にとっても追い込まれてしまいましたが、助手さんや舞監サブ、外部から来てくださったスタッフの方、そしてスタッフのみんなが沢山サポートしてくれたことにより、最後まで努めることができました。私が動けないため、舞監サブが代わりに動いてくれたり、スタッフが背負って私を運んでくれたり、先生方は励ましの言葉をかけてくださいました。

怪我をしてしまって大変なことは沢山ありましたが、3年生パフォーマンスを無事に終えることができたこと、そして3年生の先輩方の素敵なお舞台に携わることができ、本当に良かったと思います。

次は私たちが舞台に立つ側になるので、この経験を活かして、スタッフとして携わってくださる方々に感謝の気持ちを忘れず踊りたいと思います。本当にありがとうございました。



瘡師有紀奈(卒業生) 卒業公演

第21回舞踊学専攻卒業公演を行うにあたり、先生方や助手さん、スタッフの皆様、大学関係者の皆様に多大なご協力をいただきました。心から感謝いたします。ありがとうございました。また、3年ぶりに有観客で公演を行い、私たちの4年間の集大成となる卒業公演を当日ご来場いただいたお客様、そしてオンライン配信でご覧いただいた方々に届けることができ非常に嬉しく思います。

本番当日に至るまで感染症対策は徐々に緩和されていきましたが、まだまだ制限がある中で「何ができるか」「何を表現するか」時に意見がぶつかりながらも、趣向を凝らし作品を作り上げていきました。有志作品・研究室作品とともにそれぞれの個性が色濃く出た作品となりました。そして、出演者全員で踊るエンディングには「一人一人の思いを重ねた一輪の花、歩んだ道の先で再び花を咲かせられるように」という願いを込めました。私たちは3月の卒業で大きな節目を迎えましたが、卒業公演、そして4年間の大学生活を最後まで走り抜けたという誇りと自信を胸にこれからも進んでいきます。これまで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



©スタッフ・アス株式会社

阿部瑞歩(4年) 卒業論文発表会

2月2日、私たちは先輩方の素晴らしい集大成を拝聴する場に立ち会いました。4年間の集大成を「卒業公演」という舞台上素晴らしい発表をされた先輩方。「卒業論文」という形で研究に研究を重ね、ダンス学科らしい独創的で興味深い卒業論文を発表された先輩方。さらに、これら2つを掛け持ち、「卒業公演」と「卒業論文」との2つの集大成を披露なさった先輩方。それぞれの熱い成果を今年は対面で拝聴する事ができました。実際に「生で見て聴く」ことで、配信と比べてより一層、先輩方の研究に対する熱量を感じることができました。この機会を用意してくださった大学や先生方、先輩方に私たちは深く感謝の意を示さなければならないと思いました。

私は今回、卒業論文発表会で「計時」という役職をいただき、先輩方の発表を間近で拝見しました。先輩方の発表に圧倒され続け、約2時間半の卒業論文発表会は瞬く間に過ぎたように感じました。来年、私があのように立ち先輩方のように凛々しく、堂々と卒業論文を発表できるのか、心配になりました。しかし、先輩方の不安を乗り越えながら研究に取り組み成果をまとめ発表する姿を拝見し、卒業論文を執筆していく過程、この瞬間が大切だと感じました。これからも限られた時間を大切に、卒業論文を執筆していきたいです。



舟生実(2年) 山本康介さんワークショップ

2022年12月9日、バーミンガム・ロイヤル・バレエ団退団後『ローザンヌ国際バレエコンクール』の解説者などで活躍されている山本康介さんによるワークショップ(以下WS)が本学にて開催されました。

このWSが開催される事を知った時は驚きを隠せませんでした。海外のバレエ団で活躍され、バレエダンサーならばみんなが憧れるローザンヌの舞台上で解説を務めている先生が来て下さり、実際に教わる事が出来る機会があるとは思ってもおらず、お会いできることに胸を躍らせていました。

WS当日は学年問わず沢山の学生が集まりました。みんな初めは固く緊張していましたが、先生のお人柄に触れ、自然と良い緊張感に変わりました。WSでは、身体の芯の部分は強く、上半身は優雅に使う厳格なバレエの正しさと優雅さを教わりました。特に床の上に寝て行うフロアレッスンでは、摩擦や体の捻りを使わずに自分の力で身体をコントロールする術を学び、いつも以上に自分と向き合う時間が出来たように思います。バレエの歴史とも繋げて解説して下さい、理解を深めながら進めて行くことが出来ました。クラス全体への注意だけでなく、個々の学生に寄り添ったアドバイスもいただきました。



本学でこのような貴重な経験が出来たことを嬉しく思います。また、ここでの学びを今後の自分に繋げていきたいです。

立矢桃子(3年) Ryuichiさんワークショップ

今回のワークショップ(以下WS)では、私を含めたほとんどの受講生がブレイクダンス初心者だったので、最初はとても不安に感じていました。しかし、Ryuichiさんはブレイクダンスのバックグラウンドからご説明してくださり、更に初歩的なステップからとても分かりやすくご指導していただいたので、全員が楽しみながら主体的にレッスンに取り組むことができました。

教えていただいた中でも私が特に印象に残っているのは、「チェアー」という、腕で自分の体を支えてバランスをとりながらフリーズする動きです。最初はこんな動きできるわけがないと思いましたが、Ryuichiさんのご指導の下、技を磨き、多くの方が「チェアー」を習得することができました。WSで習ったステップや技を使った振付に加えて、最後には輪になって即興を見せ合う「サイファー」にも挑戦できるようになりました。そこでは自然とお互いを称え合う雰囲気生まれ、学年の垣根を越えた終始和やかなWSとなりました。

WSの終わりにはRyuichiさんが踊りを披露してくださり、目を見張るような高難度の技の数々を間近で見られたのはとても貴重な経験でした。改めて、私が日頃取り組んでいるジャンルを飛び出して新しいことに挑戦して本当に良かったと感じています。このような素晴らしい機会を本当にありがとうございました。



筒井純 (4年) ソングリーディング部

私たちソングリーディング部は、2023年3月28日に開催された「USA School & College Nationals 2023」に3チームが出場させていただき、大学編成 Jazz部門第1位、大学編成 Pom部門 Large第2位、第5位を受賞することができました。

作品を創り上げる中で、自分たちのやりたいことや届けたいもの、心からの熱い想いを演技に乗せることを模索し、葛藤し、幾度となく壁にぶつかり、自分たちが選んだ道に自信が持てないこともありましたが、それでも目の前の課題や自分たち自身から逃げずに真正面から向き合い続けた末に、一年の集大成となる本大会で上記の成績を収めることができました。

今年度は、「素直に」というスローガンを掲げて活動しました。高い目標を追い求める中で壁にぶつかった時、「仲間と踊ることが好き」という初心に帰り、その壁を乗り越えました。今後も等身大の気持ちを大切にし合えるチームを作っていきます。

私たちがこうして恵まれた環境で活動できることも、先生や監督方、大学関係者の皆様、OGの方々、家族、沢山の方の支えがあってこそだと実感しています。今後も、私たちに関わる全ての方々への感謝の想いが滲み出る作品を創り上げ、観てくださる皆様にお届けできるよう一日一日を大切に活動していきます。



片山葉月 (4年) ダンス・プロデュース研究部

私たちダンス・プロデュース研究部は、「身体×映像」という企画を毎年健美祭で行っています。今年は3年ぶりに有観客で開催することができました。

この企画は、自身で撮影・編集した映像作品を上映する〈映像マラソン〉と、映像とダンスを組み合わせた〈パフォーマンス〉の2部構成になっています。〈パフォーマンス〉では、踊ること振付に加え、映像の作成、照明や演出、衣装など、作品に関わる全てを自身でプロデュースし、披露します。また、照明や音響などの技術スタッフや、舞台監督、運営スタッフも部員が行うといったように、部員が一丸になり1つの舞台を創りあげます。

「身体×映像」は、毎年1つのテーマを軸にしています。今回のテーマは、「映像×アニメ」ということで、アニメーションを使用したダンス作品を創りました。アニメの世界観とリンクしている作品や、曲のイメージを重視した作品もあり、「アニメ」という1つのテーマから、あらゆるアプローチで創られた作品が揃いました。

コロナ禍で多くの制限を受けてきた私たちにとって、沢山のお客様を迎えて作品を披露できたことが本当に幸せでした。そして何よりも、どんな状況でもこの企画を守り続けて下さった松澤先生ならびに高野先生、また開催にあたりご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



金井羽那 (4年) モダンダンス部

私達モダンダンス部は、10月6日に第56回創作舞踊発表会を開催しました。昨年度に引き続き、感染症予防対策を行った上での発表会とさせていただきます。コロナ禍で練習が順調に進まず、苦しい時期もありました。しかし、部員の、発表会を成功させたいという強い想いと諦めない心が発表会当日に繋がったと思います。

第一部「The Greatest Showman」では、ミュージカル作品のオマージュに挑戦しました。作品の華やかな世界観をお客様に楽しんでもいただけるよう、沢山の意見を出し合いました。それぞれのテーマに沿って物語が展開するように、部員一丸となって創作や練習に取り組み、表情にも力を入れ、作品の完成度にこだわりました。

発表会当日は、日々の練習の成果を発揮することができた舞台となりました。自分たちの手で創作をした作品を舞台上で踊ることができた幸せを改めて感じることができました。この当たり前ではない、恵まれた環境に感謝をし、今後も精進して参ります。

部員の為に熱くご指導いただいた坂本先生、携わって下さった全ての皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



内田実莉亜 (1年) Aクラス代表

私の夢は、人の心を動かし、社会をも動かす表現者になることです。私は3歳から踊ることを始め、15年間ダンスをしてきたことで大きな夢ができました。この目標を掲げてから初めて夢に近づく大きな一歩として、慣れないスーツを身につけ、微かな不安と大きな期待を胸に私は日本女子体育大学の門をくぐりました。そこに広がっていたのは、たくさんの夢と楽しみが満ち溢れた世界でした。

ここには、舞踊のエキスパートであり、全力で学生をサポートして下さる先生方、明るく優しく私たちを歓迎して下さった心強い先輩方、そして「踊ることが好き」という共通点をもち、大きな夢を持つ新しい仲間たちがいます。今まで歩んできた道はそれぞれ違いますが、だからこそお互いのダンス観をぶつけあい感化しあうことで、切磋琢磨しながら理想のダンサーへと成長できる場所だと確信しました。人の心と社会に影響を与えられる表現者になるには茨の道が待っていると思います。しかし、この日本女子体育大学で仲間と本気でダンスを学問として学び、自分の体を鍛え抜き成長します。そして世の中をよく見て、自分がこの世界に伝えたいことを熟思黙想し、この4年間で人生に革命を起こします。



友重千恵理 (1年) Bクラス代表

コロナ禍によって制限されてきた高校生活を終えて、日本女子体育大学へと入学しました。

高校生活では、コロナ禍により大会が中止になったり、練習を対面でできなかつたりと、普通に活動できることの有り難みを感じてきました。大学生活では、制限が緩和されて通常授業を受けられることや学校行事を行えることを嬉しく思います。

親元を離れての生活には不安もありますが、素敵な大学、仲間や先輩、先生方がいるこれからの大学生活に心を躍らせています。自分でやらなければならないことも増え、どうすればいいかと悩むこともあります。しかし受動的ではなく能動的に、自分はどう大人なのだと自覚を持って頑張りたいです。

私はダンスが大好きで、ダンス学科に入りました。その「ダンスが好き」という気持ちを忘れずに、ダンスを楽しみながらも、自分に厳しく、一生懸命に努力し、4年後には今以上にダンスのスキルの上でも人としても成長していることが目標です。普通の日常があることに感謝し、1日1日の学びを大切に全力で取り組みたいと思います。



中野寧々 (M1) 大学院代表

私は、1年前まではまさか自分が大学院まで行くとは思っていませんでした。論文研究を深めたい気持ちもありましたが、さらに2年間研究を続けられる自信も、自分のやりたい活動と両立できる自信もなく、院に進むことはなかなか決断し難いものでした。しかし、論文研究でお世話になっていた松澤先生をはじめ、須甲先生や両親、一足先に社会に出ている友人たちと話をしていくにつれ、今勉強をしたいという気持ちが高まり、大学院への進学を決断するに至りました。

中学や高校、大学への進学とは異なり不安が多く、最初は、院に「行かせてもらう」ので無駄にはしてはいけない、というほとんどプレッシャーのみを感じていました。しかしオリエンテーション後、大学院の先輩方との顔合わせで、授業や論文研究、日々の過ごし方などを教えていただいたことで、驚くほど不安が期待に変わっていきました。さらに、同じ研究室を志望しているメンバーと、自分たちの大学院での目標について話し合い、相談しあう中で、ここ2、3年見失っていた気力がどんどん沸き上がってくるのを感じました。今までどれだけ精神が落ち込んでいたのかを思い知らされるほど、今ではとても活気に満ち溢れています。2年間はあっという間なので、学べる環境に感謝しながら一日一日を大切に精進していきたいです。



編集後記

最後までご覧いただき、ありがとうございます。今年度から、オンデマンド授業が対面授業になったり、無観客での公演が有観客になったりと、コロナ禍前の生活に戻りつつあります。昨年度よりも多くの場でダンス学科の良さを感じていただけることを、大変嬉しく思います。これからも、このダンスレターを通じてダンス学科の魅力を発信していきますので、宜しくお願い致します。

大木ことり、宮田慎加

NEWS

— 大学 —

<2023年度オープンキャンパス>

● 2023

5/28(日) 6/11(日) 7/16(日) 8/6(日) 8/27(日) 9/10(日) 12/17(日)

● 2024

3/20(水・祝)

— ダンス学科 —

<高校生のためのダンス・サテライト授業> ※今年度はオープンキャンパスと同時開催

2023.5/28(日) 6/11(日) 12/17(日)

@日本女子体育大学 総合体育館 体育室1・2/総合体育館 多目的ホール

<SHOWCASE2023夏>

2023.7/16(日)@日本女子体育大学 総合体育館 多目的ホール

<ダンス・ワーク・セミナー>

2023.8/19(土)20(日) @日本女子体育大学

<3年生パフォーマンス>

2023.11/11(土)12(日) @日本女子体育大学 総合体育館 多目的ホール

<第76回全国中学校・高等学校ダンスコンクール>

2023.11/23(木・祝) @日本女子体育大学 総合体育館 アリーナ(特設会場)

<第22回ダンス学科卒業公演>

2024.1/25(木) @府中の森芸術劇場 どりーむホール

<日本女子体育大学イベント・入試情報>



日本女子体育大学 ホームページ



日本女子体育大学 公式LINE



日本女子体育大学ダンス学科公式Instagram
nichijo_dance



日本女子体育大学ダンス学科公式YouTube
動画でわかるダンス学科

発行日 2023年5月28日(日)



日本女子体育大学

Dance Letter

Vol.43

Japan Women's College of Physical Education

Department of Dance